



令和5年度 弘前市雪国対応型 メガソーラー発電所成果報告書

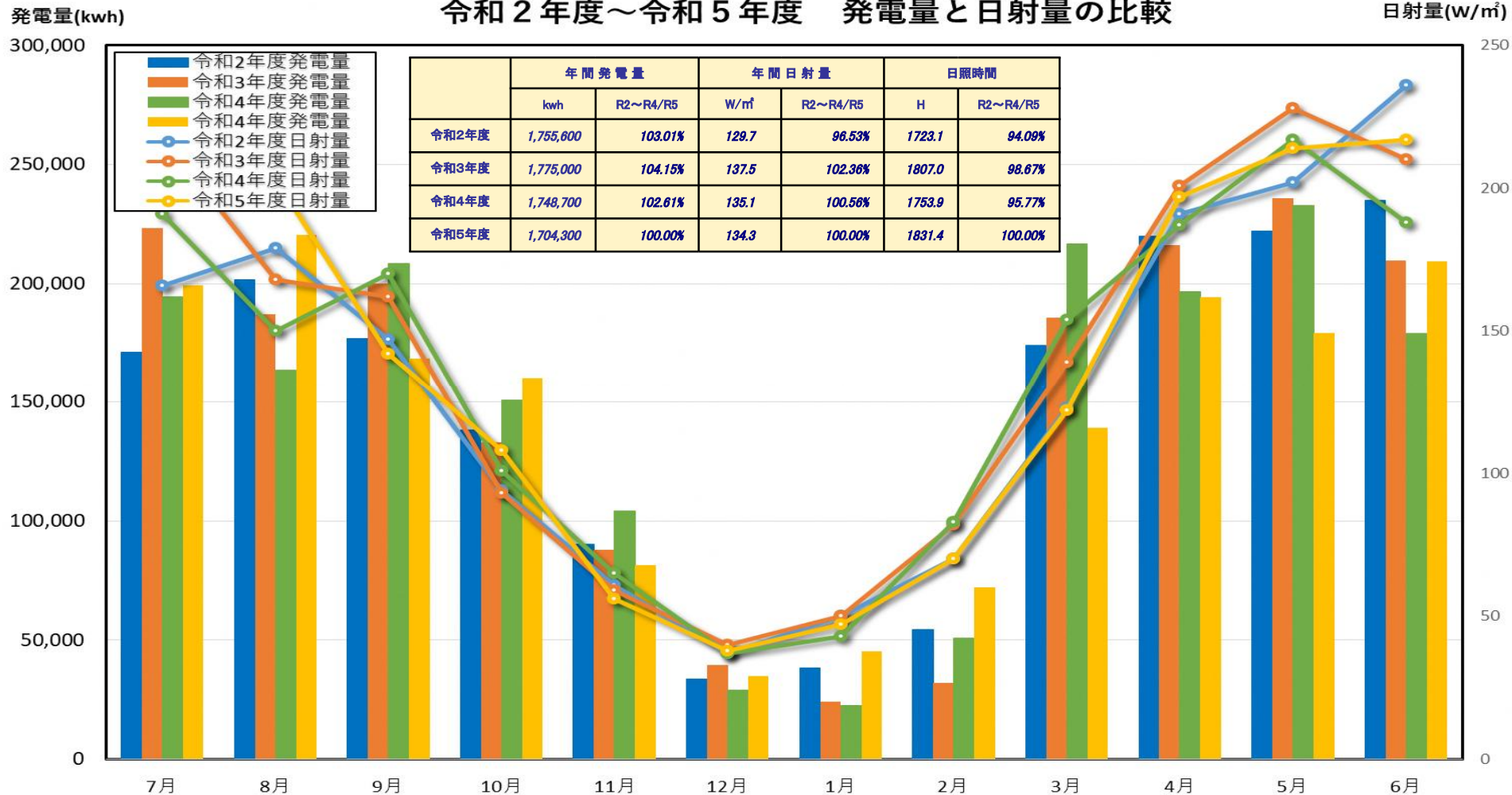




成果報告【過年度との比較】

令和5年度は平均発電量 1,740,400kW (9年間平均)より約2%減となりました。

令和2年度～令和5年度 発電量と日射量の比較





成果報告【分析】

令和5年度発電量を分析してみると、3月～5月の発電量が著しく減少しています。

原因としては、3月～5月には出力制御(8時～14時発電停止)で発電停止をしなければならないことから
発電量の減少が大きくなることがあげられます。

令和5年度は3月1回、4月4回、5月5回、計10回の出力制御をしています。

出力制御は休日の終日晴天の日が多く、一日当たりの発電量が最大の日となるために、発電量の
損失が大きくなります。

今後は出力制御回数が増えるために、発電量は減少方向になります。



成果報告【積雪による発電量の影響】

令和5年度の降雪状態を例年と比較すると降雪量は343cm、平均の452cmと比較すると、約24%少ないことから例年の冬季間より発電量は多くなっています。しかしながらその他の季節の日照不足が発電量を減少させ、全体の発電量は4年間で最低となりました。

令和2～令和5年度 冬期間12月～2月の3ヶ月間の積雪量の影響

	発電量		積雪量		日照時間	
	(kwh)	R2～R4/R5 比較	(cm)	R2～R4/R5 比較	(h)	R2～R4/R5 比較
令和2年度	126,300	82.87%	227	66.18%	215.2	133.17%
令和3年度	95,500	62.66%	478	139.36%	178.3	110.33%
令和4年度	102,300	67.13%	483	140.82%	154.6	95.67%
令和5年度	152,400	100.00%	343	100.00%	161.6	100.00%